

漁況予報 いわし

第 1 3 1 号

2005年 9～10 月漁期
(2005年9月 9 日発行)

＝ 概 況 ＝

【まいわし】

主要定置網における7月のマイワシ総水揚げ量は、30トンで前年同期の335トンを大きく下回る値となりました。8月に入ると小中羽イワシへと成長した0歳魚が、佐島地区の小型定置でややまとまり、総水揚げ量も60トンとなりました。(前年同期26トン)

佐島地区のまき網は、7月は餌イワシとしてカタクチイワシに混じる程度でしたが、8月には延べ4日で計24トンの水揚げがありました。

魚体は、小～中羽マイワシ(11～14cm 台)主体で資源低水準期特有の魚種組成となりました。昨年同様、0歳魚頼みの漁模様になっています。

平均単価は、全国的に水揚げ量が少ないこともあってか、この大きさでも100～150円/kg しました。

【かたくちいわし】

主要定置網における7月のカタクチイワシ総水揚げ量は400トンで、昨年同期(115トン)を上回る値となりました。

8月も引き続き長井～鎌倉・腰越地区を中心に、計300トン(速報値)と昨年同期(158トン)を上回りました。

佐島地区のまき網は、断続的に餌イワシとして漁獲しましたが、小羽マイワシ混じりでの漁獲が多かったようです。

魚体は2ヶ月とも11-12cm 台の小型～大型成魚が主体で、未成魚の割合が低くなりました。

【しらす】

6月一杯不漁だった相模湾のシラス漁でしたが、7月に入るとまず平塚を中心とした奥部で漁が始まりました。200～400kg/統/日の漁獲水準が月末まで継続しました。一方、三浦半島側では中旬に1～2日同100kgを超える日があった以外は散発的な漁模様で終始しました。26日に台風7号が房総沖を通過した後の28日から少しずつシラスが見えるようになりました。

8月に入ると、上旬は全域で好漁となり、三浦半島側で同200kg、奥部で同200～800kgの漁獲水準となりました。中旬になると、奥部で急速に漁獲水準が落ち始めましたが、三浦半島側では引き続き好漁傾向が継続し、まだ魚群反応があるにも係わらず暑いこともあり、朝1～2回網を入れて帰港する船が続出しました。

定線観測では卵が多く採集されていますし、黒潮も離岸傾向になり、湾内の潮も昨年と違い弛んでいますので、昨年のように殆ど漁が切れてしまうようなことはないと思われま

まいわし

今漁期は、中羽イワシ(0歳魚、2005年級群)が主体になるでしょう。

今漁期の水揚げ量は、定置網を主体に約65トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び大型成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約390トンと予測されます。

しらす

今漁期は、7～8月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

今漁期のシラスは相模湾内で生まれたものが中心になります。

今漁期の漁獲量は、約175トンと予測されます。

過去5年の9・10月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

